

これからの消防 OA システム

富士通株式会社 官公需営業本部

自治体第一営業部 中 熊 裕 之

はじめに

近年における都市の近代化, 複雑化に伴い地域の防災情報の的確な把握, 管理が求められています。

当社では, 消防業務の第一義である消火活動(指令管制システム)のみならず, 予防の観点からも消防業務の電算化に注目し, 消防 OA システムの開発に取り組んできました。

本章では, 当社の考える「消防 OA システム」の最新動向と将来構想をご紹介します。

1. 消防 OA システムの最新動向

現在の消防 OA システムは第 2 世代の消防 OA システムであるといえます。

第 1 世代の消防 OA システムでは, ごく一部の限られた業務システムに限られた職員の方が使用していました。これは, 例えば統計などの業務の補完として, あるいは指令管制システムへ提供する支援データ整備という位置づけで推進されていました。

第 2 世代の OA システムでは, 消防システム全体における各業務の位置づけが明確になっています。業務分析も本格的に行われ,

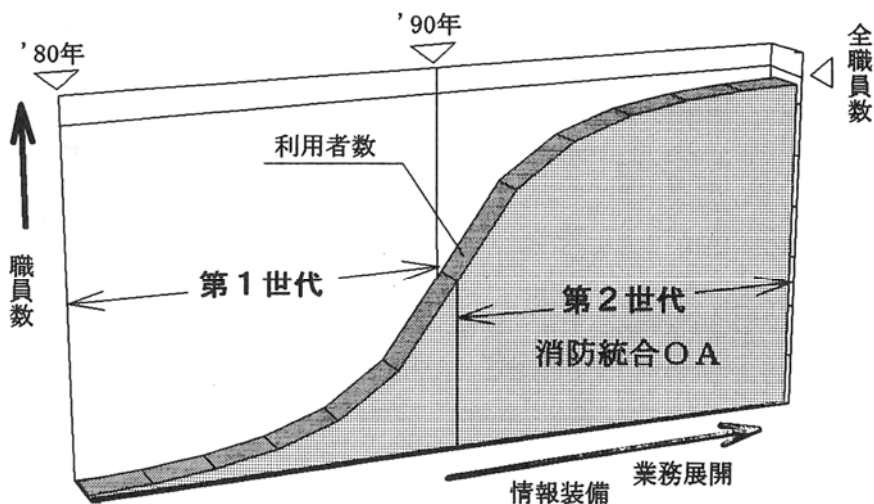


図1 消防 OA システムの展開

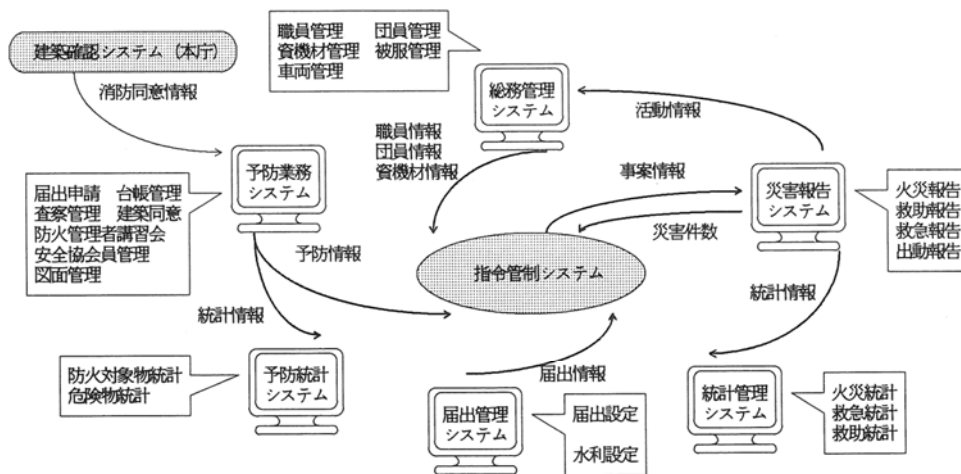


図2 消防統合 OA システムの概要イメージ

システムが業務の細部にまでかかわるようになったため、ほとんどの職員の方がシステムを利用するようになってきました。

(1) 消防統合 OA のコンセプト

さて、第2世代消防 OA システムのコンセプトの集大成として、当社では FIRESTATION 一消防統合 OA システムをご提供しています。

消防統合 OA システムでは、豊富なシステムを揃え、ニーズに合わせて導入することができます。また、消防業務全体のデータの流れを分析し、シンプルでわかりやすいデータフローを確立しました。

さらに、グラフィカルな画面(GUI)で操作がとてわかりやすい上、データを活かせる機能も充実しており、定型業務から非定型業務までさまざまな場面で力を発揮します。

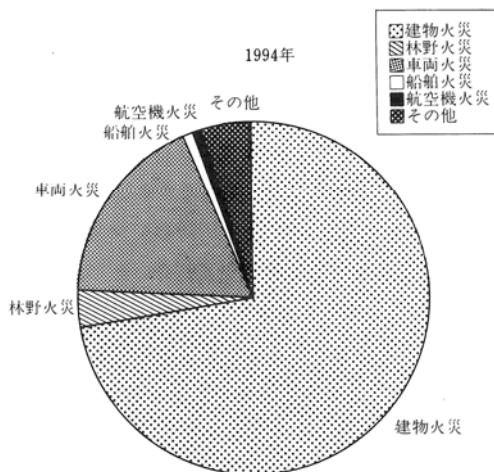


図3 消防統合 OA システム画面例

(2) 消防統合 OA システムのプラットフォーム

消防統合 OA システムは、スタンドアロンシステムから大規模ネットワークまで幅広いお客様でご導入いただけます。段階的グレードアップも簡単です。

複数のスタンドアロンマシンを設置する場合にはフロッピーディスクや MO(光磁気

ディスク)などの媒体による署所データ結合はもちろん、パソコン通信などを利用して簡易ネットワークシステムも構築でき、小都市のお客様にお勧めです。

さらにサーバを導入し、ネットワーク環境を整備することにより、本格的なネットワークシステムへと展開することができます。

当社では、汎用コンピュータをはじめとして、オフィスコンピュータ、エンジニアリングワークステーション、パーソナルコンピュータのいずれもがサーバとしての位置づけを持っています。サーバの機種選定にあたってはクライアント台数データ量、稼働率等の要素を検討することになります。しかし最近、パソコンサーバの性能が飛躍的に向上しており、一般的には中都市クラスのOAシステムはパソコンサーバでカバーできるようになってきました。特に汎用コンピュータやエンジニアリングワークステーションは専門的知識を持ったシステム管理者を常時要するという大きな負担もあ

るため、パソコンサーバへのシフト傾向が見られます。またクライアントについても、ビジネスユースのシステムであることからパソコンで十分な効果が期待できると考えています。

いずれにしても、第2世代の消防OAシステムはエンドユーザが多いことが特徴です。

従って、エンドユーザにとってはコンピュータを意識する必要がなく、しかも運用しやすい「業務アプリケーション」の開発が、優先的な課題になってきていると考えています。

2. 消防OAシステム将来構想

さて、昨今の情報技術の進歩はめざましいほどですが、そうした中で消防における次世代のOAシステムとはどのようなものになるのでしょうか。

(1) 期待されるマルチメディアシステム

最近よく使われるキーワードに「マルチメディア」という言葉があります。

マルチメディアとは、文字、音声、映像な

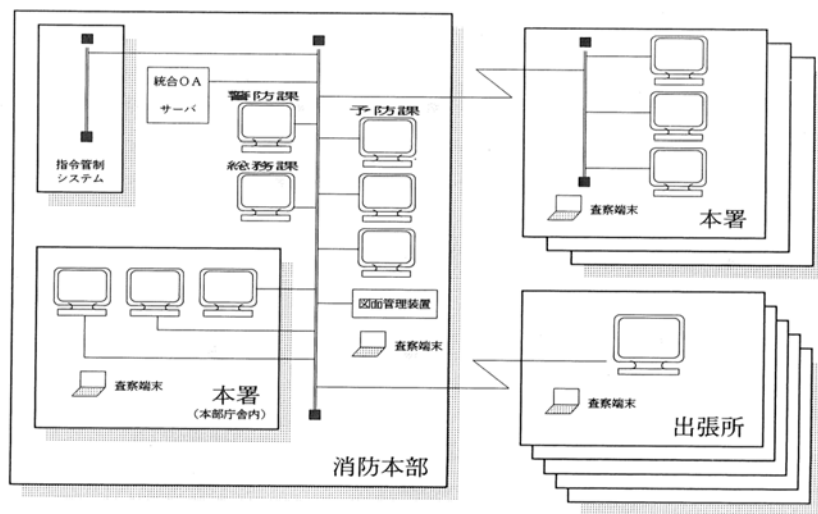


図4 消防統合OAシステム構成イメージ

どさまざまなメディアの双方向通信ができることだといわれています。しかし、本格的な実現にあたってはインフラや利用面において検討がはじまったばかりです。特にマルチメディアの展開には大容量通信が必要なため光ファイバ網などのインフラ整備が待たれるところです。

(2) 次世代の消防 OA システム

さて、消防機関においてマルチメディアの適用が期待できるのは、災害活動支援のビジュアル化や、OA システムの観点でいえば、広報活動における利用などが考えられます。例えば、マルチメディアを利用した防災体験や防災啓発システム、災害情報の問い合わせ対応などです。

また、火災の原因調査などにおいては、映像を用いた分析システムの実現も考えられ、

その情報は調査終了後も、予防活動や災害活動における重要なデータとなることでしょう。

さらに、マルチメディア時代には高速情報ハイウェイとも呼ばれる通信網が整備されていますので、消防システムはさまざまな地域情報システムと連携できるようになります。

従って市民サービスのための情報をオープン化することにより、市民との密接なコミュニケーションも可能です。

例えば、り災証明書や搬送証明書の発行を市役所や公民館などで行ったり、逆に住民票の発行が消防署で行えるようになるでしょう。

さらに市の公共施設を利用して考えられるシステムとしては、防災や救護などの講

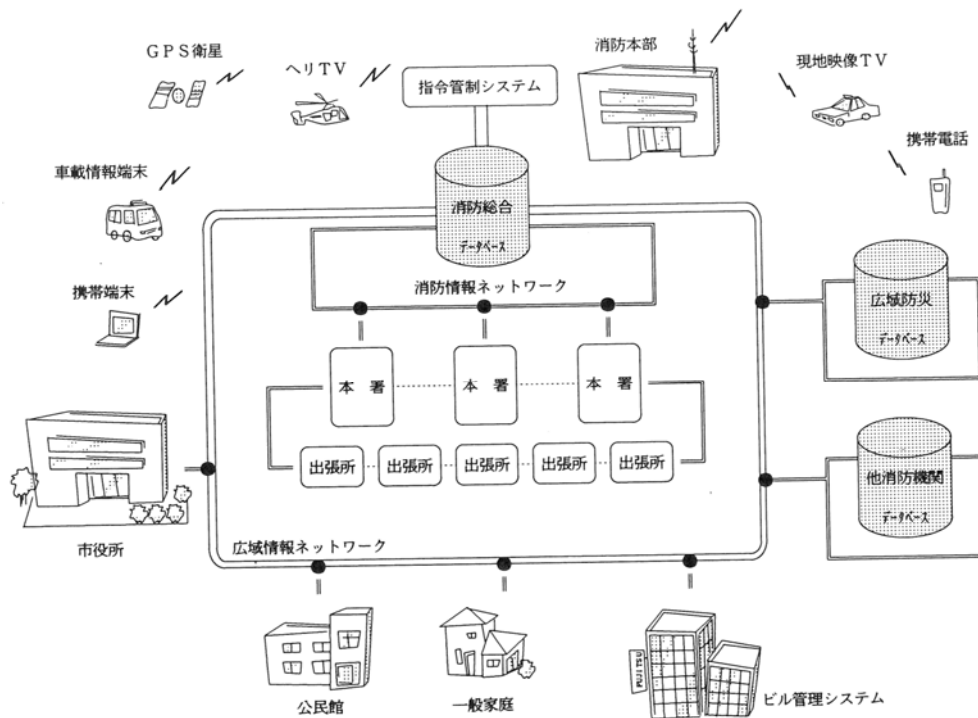


図5 第3世代の消防 OA システムイメージ

習会により多くの市民が参加できるデスク
トップコンファレンス(遠隔地ユーザ同士
のリアルタイム会議システム),映像などを
交えて市民からの相談に対応する双方向の
情報提供システムなどが考えられ,今以上
に市民との距離が近くなると思われま

(3) 消防機関はマルチ防災ステーションへ

『地域防災』における消防の役割は,日々
の活動実績や施設,装備,人材の点から見て
大変重要であることにまちがいありません。

さらに,消防の保有する豊富な災害情報
や予防情報などのデータベースは,地域社
会にとってかけがえのない財産といえます。

当社は,第2世代消防OAシステムとして
消防データベースをいかに構築するかを主
眼とし,しかも情報分析を行うことによっ
て消防行政の意思決定に貢献できるシステ
ムをめざしてきました。

そして,次世代のシステム—第3世代の消
防OAシステムでは,消防データベースをい
かに地域社会に還元していくかがシステム
構築の課題であると認識しています。

さらには,他消防機関データベース,都道
府県における防災データベースとの相互ア
クセスの可能な広域防災システムへの展開
に向けて,私たちはこれからもトータルソ
リューションの提供を行っていきたくと考
えています。